

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和元年度技術情報第5号（バレイシヨの疫病）について（送付）

バレイシヨ疫病の多発が懸念されます。情報を取りまとめましたので送付します。

- 1 農作物名 バレイシヨ
- 2 病害虫名 疫病
- 3 発生状況
 - (1) 発生地域 熊毛地域, 奄美地域
 - (2) 発生量 多

4 情報の内容

熊毛地域及び奄美地域ではバレイシヨ疫病の発生程度のやや高いほ場が認められ、今後も被害の拡大が懸念されるため、適切な防除対策を施す必要がある。

5 情報の根拠

- (1) 1月の発生ほ場率は熊毛地域では67%（平成8%），奄美地域では67%（平成26%）と平成より高く（図1，図2），発生程度のやや高いほ場も認められた（表1）。
- (2) 向こう1か月の気象予報では、気温が高く、降水量は平成並みか多いと予報され、今後も発病しやすい条件が続くと予想されるため、注意を要する。

表1 1月のバレイシヨ疫病の発生状況（調査日：2020年1月15～20日）

| 調査地域 | 発生ほ場率(%) | | | 本年発生程度別ほ場率(%) | | | | | 平均発病株率(%) | 概評 |
|---------------|----------|----|----|---------------|---|----|----|----|-----------|----|
| | 本年 | 前年 | 平成 | 甚 | 多 | 中 | 少 | 無 | | |
| 熊毛(西之表市) | 67 | 0 | 8 | 0 | 0 | 17 | 50 | 33 | 15.0 | 多 |
| 奄美(徳之島町, 和泊町) | 67 | 75 | 26 | 0 | 0 | 8 | 58 | 33 | 9.5 | 多 |

* 調査ほ場数は各市町村6ほ場

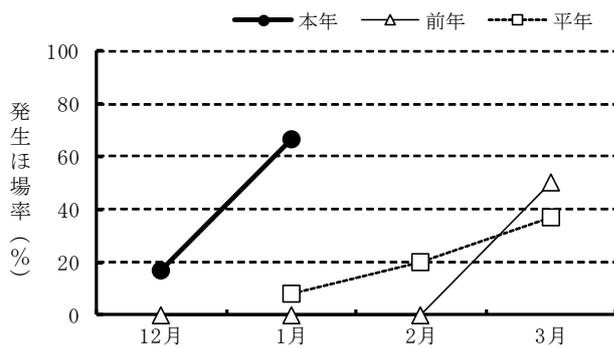


図1 疫病の発生ほ場率（熊毛）

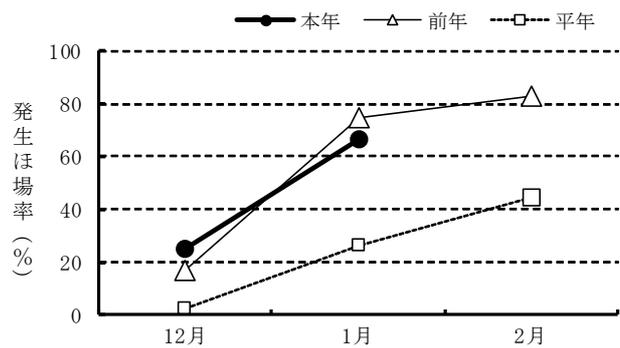


図2 疫病の発生ほ場率（奄美）

6 防除上注意すべき事項

- (1) 発生ほ場では治療効果や残効性のある薬剤（表2参照）を7～10日おきに散布する。
- (2) 未発生ほ場では、防除は降雨前の予防散布に重点をおく。
- (3) 茎葉に病斑が多いと塊茎部への感染しやすいので、防除を徹底する。
- (4) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- (5) 排水の悪いほ場では多発しやすいので、排水対策を十分に行う。

(6) 収穫残渣は次作の伝染源となるので、軟腐病対策も兼ねて、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

7 参考データ

表2 バレイシヨ疫病の主な防除薬剤の特徴

| 農薬名 | 浸透移行性 ¹⁾ | 葉内浸達性 ²⁾ | 残効性 | 作用機構分類 ³⁾ |
|----------------------|---------------------|---------------------|-----|----------------------|
| エキナイン顆粒水和剤 | ○ | ○ | ◎ | 27, 40 |
| エトフィンフロアブル | ○ | ○ | ◎ | 22 |
| カンパネラ水和剤 ベネセット水和剤 | ○ | ○ | ○ | 40, M03 |
| ザンプロDMフロアブル | ○ | | ◎ | 45, 40 |
| ゾーベックエンカンティア | ○ | ○ | ND | 49, 11 |
| ダイナモ顆粒水和剤 | | ○ | ◎ | 21, 27 |
| フォリオゴールド | ○ | ○ | ND | 4, M05 |
| フェスティバルM水和剤 | | ○ | ◎ | 40, M03 |
| ブリザード水和剤 | | ○ | ◎ | 27, M05 |
| プロポーズ顆粒水和剤 | ○ | ○ | ◎ | 40, M05 |
| ベトファイター顆粒水和剤 | ○ | ○ | ◎ | 27, 40 |
| ホライズンドライフロアブル | | ○ | ○ | 27, 11 |
| ライメイフロアブル | | ○ | ◎ | 21 |
| ランマンフロアブル | | ○ | ◎ | 21 |
| リライアブルフロアブル | ○ | ○ | ○~◎ | 43, 28 |
| リドミルゴールドMZ | ○ | ○ | ND | M03, 4 |
| レーバスフロアブル | | ○ | ◎ | 40 |

○：高い，◎特に高い，ND試験データなし

1) 茎葉に付着した薬剤成分が吸収され，植物体内移動により上位葉にも効果が現れる効果。

2) 〃 が茎葉内部に浸透する性質。

3) 作用機構分類：FRACコード

FRACコードとは殺菌剤を作用機構別に分類してつけられた番号，記号である。

同じFRACコードの薬剤を連用すると耐性菌の発生リスクが高まるので，薬剤選択の際は注意する。

※防除に際しては地域の防除暦を参照する。